

決算概況

当期純利益



当期純利益は、経常利益に特別損益や法人税等および法人税等調整額を加減した最終の利益です。

令和3年度は、市場金利の低迷により貸出金利息や有価証券利息の減少傾向が続く中において、経費削減を推し進めたことなどにより収支改善が図られ、2億1百万円を計上することができました。

コア業務純益



コア業務純益は、本業での収益力を表す指標です。

令和3年度は、前年度に計上した構造改革費用としての退職一時金がなくなったことなどから、黒字へと回復して2億4百万円を計上することができました。

預金残高



預金残高は、長引く新型コロナウイルス感染症の影響により消費を抑えた年金受給者さまの資金が歩留まりしたことなどから、増加しました。

令和3年度は前期より12億8千5百万円増加し、2,306億8千9百万円となりました。

貸出金残高



貸出金残高は、製造業を中心とした事業性資金、アパート建設資金、太陽光発電資金などの需要に応じて、増加しました。

令和3年度は前期より10億4千8百万円増加し、882億7千7百万円となりました。

自己資本比率

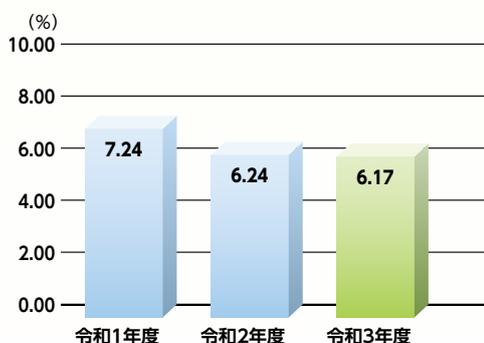


自己資本比率は金融機関の健全性を表す指標で、損失が発生する可能性のある資産に対する自己資本の割合のことです。国内のみで営業する金融機関の場合、4%以上の比率を維持することが法律で定められております。

令和3年度の自己資本比率は利益計上に加えて、地域金融機関として存続していくために必要となる自己資本を充実させる出資金増強策に取り組んだことから、自己資本額の増加により、8.58%に上昇いたしました。

国内基準を大きく超える水準であり、高い健全性を確保しております。

不良債権比率



令和3年度の金融再生法に基づく開示債権の不良債権比率は6.17%で、前期より0.07ポイント低下(改善)しました。なお、不良債権のうち85.89%は担保・保証や貸倒引当金等によって保全されております。

また、不良債権額から保全額を差し引いた実質的な不良債権は貸出債権全体の0.87%であり、十分な保全がなされております。

はじめに

地域を応援する
取り組み

コンプライアンス等
への取り組み

各種サービスの
ご案内

ガバナンスの
充実状況

資料編